

2023年上半期、つるエネーおでんき報告

2023年も早いところ、半年を超えました。そこで今回は、上半期を振り返るということで、エネルギー価格にまつわる状況をお伝えしたいと思います。「おでんき報告」と題しまして、今年の本邦における電気の需要と供給の関係を考察したいと思います。

さて、2023年の電力市場は、「思いのほか落ち着いていた」という表現が当社では正しいと考えます。COVID-19が猛威を奮う数年間、電力価格は大荒れだったこともあり、2023年も大多数の電力小売事業者は、「今年も高騰が起きるのではないか」という前提のもと、リスクヘッジや対策をしてきたのだらうと考えます。

その一環として、大手電力会社を中心に電気代の値上げをしてきたわけですが、この値上げに対して、消費側の節電意識が進み、電力消費量が減少したことで需要が減った、という分析もあります。

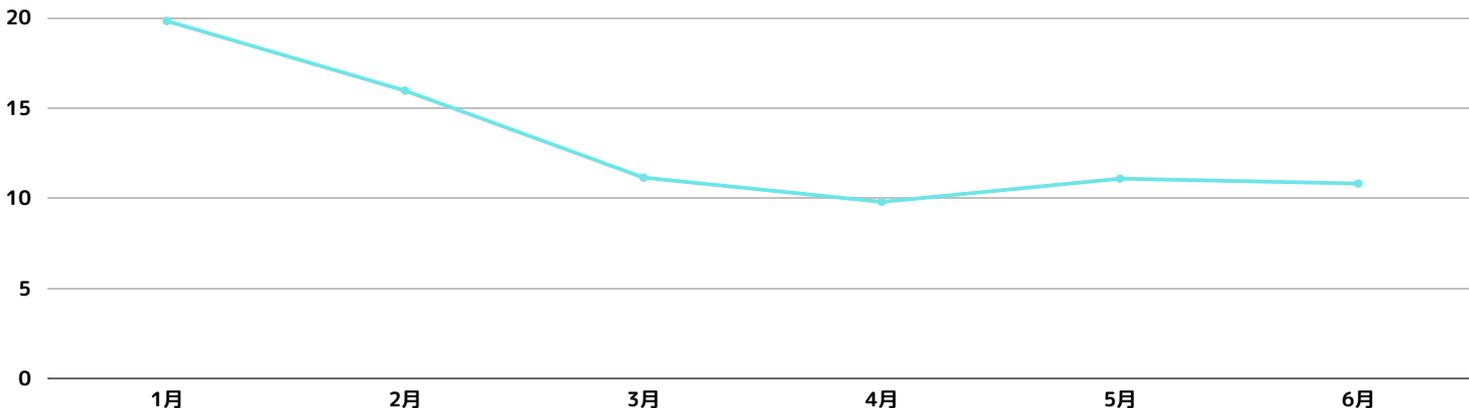
電力価格は、常に需要と供給のバランスで値付けがされていきますが、予測は大変難しく、いかにして高騰リスクを下げながら、安定的な電力価格を実現するかを日夜、検討しております。

前提知識から話すと・・・

大前提として、電力を仕入れる、とはどういうことかをお伝えしたいと思います。わかりやすく単純化すると、日本の電力は発電所から生み出された電力が一度、巨大なバケツの中に入り、それを各家庭・事業所に流していく、というイメージです。言い換えれば、つるエネ独自のバケツがあるわけではなく、全社共通の巨大な「日本の」バケツがあり、その中身が銅線である電柱を通過して、各家庭・事業所に流れていきます。ここでポイントとなるのは、昨年末にニュースなどで「需給ひっ迫警報」が発令されました。その際に、「この警報は、つるエネルギーさんには関係ありますか？」という質問をいただきました。答えはYESです。日本で電力小売事業を営む方であれば、ほぼ全員関係がありました。なぜならば、「日本の」バケツの中に、必要な電力が足りない＝需給ひっ迫警報なので、どこの会社を選んでいるかにかかわらず、電力が足りないということは日本全体の問題だったからです。上記のように説明すると、じゃあつるエネが電力を調達するのは、1社（日本のバケツ）だけなの？ということ聞かれそうですが、答えは半分Noです。1社だけではありません。日本には数多くの発電事業者や電力取引をする事業者がいます。その中で、様々な方法、考え方をもって選択・仕入れを行うわけですが、この詳細に関してはかなり専門的なので割愛させていただきますが、つるエネは独自の調達方針があります。それは「長期・安定」です。長期間契約していただけるお客様＝仲間。つるエネを選んでくださる方に向けて、なるべく変動幅の少ない価格でもって電力を提供しようという考え方（受託者責任）です。この考え方に沿って、どの方法で電力をお届けするのか、皆様お一人お一人のお名前、顔を思い出しながら日々考えています。

2023年1-6月期のおでんき報告

ここでは参考として、日本最大の電力マーケットであるJEPXの動向を考察していきたいと思ひます。以下は、今年1年の電力価格推移です。1月から4月までは右肩下がり。その後若干の上昇があり、平らな推移となっています。



電力市場というのは、他の市場と同じく、需要と供給の関係で値付けがされます。つまり、冬場は暖房需要によって電力価格は上がりやすく、冬を超えると、少しずつ需要が減っていき、価格が落ちていく、ということとなります。ですがここで、予想外の巨大地震、天災が発生したり、猛暑・極冬となると、発電の能力が追い付かず、電力価格が飛び上がったりします。電力マーケットというのは、こういった「予想外」に対して、非常に脆弱な状態となっていることがこれまでの分析から読み解ける、と当社考えております。

2023年単年でみると意外に落ち着いている電力マーケットのように見えますが、一方で、2021年1月に発生した月間平均66.53円は決して忘れてはならない歴史です。「長期・安定」を旨に、日ごろからリスクヘッジを行うことによって、冬場の高騰に備え、夏場の猛暑に備え、様々な対策を検討・実行しております。そういった日々の試行錯誤が、「長期・安定」を目指すつるエネの姿勢として、今後もお伝えできればと考えております。